

JOMF 派遣医師便り (2019. 7)

◆シンガポール◆

National Dental Center 設立

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポール国立大学はこのほど3年の工期と3億7千万ドルをかけて National Dental Center を設立した。一日に500人の外来患者を受け入れることができ、これはこの前身となった施設に比べ40%増となっている。

歯列矯正学、小児歯科、歯周病学、口腔及び顎顔面外科学など広範な領域の疾患を対象とする。老年期の患者さんの他、複数の疾患を同時に持つ患者さんなど、特別なケアが必要な患者さんも積極的に対象としていくとのことである。

その表れとして、全ての治療室は車椅子に対応可能であり、患者さんは車椅子に乗ったままで治療を受けることが可能である。重症肥満の方用の特別な歯科治療椅子も備えられている。また、閉所恐怖症の患者さんにも対応できるようにスペースを広くした治療室も4部屋用意された。

この建物内にはシンガポール国立大学歯学部が移転しており、入学定員を現在の年60人から2021年までには80人に増加やす予定である。建物は11階建てで34,000平方メートルあるが、これはかつての施設より18,000平方メートルも広がっている。教育にもアイトラッキング、バーチャルラーニング、ハプティックス（触覚技術、皮膚感覚フィードバックを得る技術）、など先進的な手法が取り入れられている。

研究も盛んで再生生物学、組織工学、最先端の臨床試験や、慢性疾患と歯科疾患の関連の研究も行われる。

シンガポールは、新しい施設を作り、歯科医師数を増やし、先端技術を取り入れた教育を積極的に行おうとしている。これは、英語圏かつ中国語圏という強みがあり、更に、患者ソースのみならず、教育側のソースもシンガポール国内だけにとどまらず、世界全てであるのでこうした積極策が取れるのではないかと推測される。

日本は言語面では不利であるが、自動翻訳技術の進歩が著しい今、近い将来この不利は大きな障壁ではなくなるかもしれない。すると大切なのはやはり技術力である。

先月、東京医科歯科大学と三井物産が協力してAIを活用した診断、治療システムが開発するということが発表された。日本の将来を信じたい。